

旗揚げ公演へ5人一丸

高校卒業後も演劇を続けたい学生の受け皿になろうと、八戸市の八戸学院大学に今春、演劇部が誕生した。同大によると、同じ学校法人の短大に数年前、演劇サークルがあったが、本格的な部活動はこれが初。部員5人は本年度中の単独旗揚げ公演を目指し、一丸となって練習に励んでいる。



基礎的な稽古を重ねる八学大演劇部員(舞台の2人と正面手前の3人)

「あ、え、い、う、え、お、あ、お」。同大の階段教室に部員5人の発声練習が響く。続いて数人ずつに分かれ、停電で止まったエレベーターの中でのやりとりをエチュード(即興劇)で表現。それぞれの演技を互いに批評する。まだ基礎練習の段階だが、部長の長谷川華さん(2年)は「いろいろな表現ができるようになり、舞台を見るみんなの記憶に残るようになりたい」と力を込める。演劇が盛んな八戸市は社会人らの劇団が多い。しかし高校で演劇部だった若者が卒業後に劇団に入っても、仕事や学業と両立させ舞台に立つのは難しいのが実情。演劇部があるという理由で県外大学に進み、故郷を離れる例もあるという。同大で地域文化論の講義を持っていた、脚本家で八戸市公民館館長の榎谷伸夫さんは、同大の学生の演劇

八学大に演劇部誕生

八戸

志向を感じていた。「スポーツが盛んな大学というイメージが強いが、今後は文化活動も力を入れるということ」で、演劇部創設の機運が出てきた。4月、高校演劇出身の学生3人により演劇部が創部。さらに演劇未経験の2人も加わった。

同大は飛躍が望まれる複数の運動部を「強化指定部」としてバックアップしているが、演劇部は文化部として初めて強化指定部になった。大学側の期待の表れで、榎谷さんは顧問に就任、週1回の稽古で学生たちを厳しく指導している。「若い演劇人の受け皿となる大学演劇部の創部はありがたい。同部が実績を重ね、八戸の演劇を一層盛り上げる起爆剤になれば」。榎谷さんの期待も大きい。

演劇部の初舞台は11月に市内で開催される学校法人の創設記念ミュージカルの予定だが、これには演劇部以外の生徒も多数参加する。「年度内には単独の旗揚げ公演ができるようになれば」と顧問の嶋崎綾乃・同大助教。「自己表現が苦手な若者がいる中、演技という自己表現もあることを、舞台から発信できる部になってほしい」(若松清巳)